

「 私の家の備え 」

岡山県 岡山市立瀬戸中学校 1年 井本 葉月

私の家では最近、土砂災害について家族で話をします。きっかけは、7月5日に起きた九州北部豪雨です。

九州北部豪雨は、平成29年7月5日水曜日の昼頃から夜にかけて、福岡県から大分県にかけて、観測史上最も多い記録的な雨量を観測しました。福岡県と大分県では計36人の方が亡くなり、福岡県内ではいまだ5人が行方不明のままとなっています。

このニュースを見て、私の家の後ろには山があり、家の近くには氾濫しやすい川もあるので、人事ではないと思いました。そこで、自分の家が土砂災害に直面した時のために、家族で土砂災害について話をしました。

まず、土砂災害について調べてみると、平成28年の土砂災害の発生件数は1,492件で、土砂災害が発生するおそれのある区域は、日本全国で約67万区域にのぼると推測されていることが分かりました。私の住んでいる地域も調べてみると、土砂災害警戒区域になっていました。実際、家の近くには「寺地地区地すべり防止区域」と書いてある看板が立っていました。

話の中で母は「裏山に続く道から、茶色の水が流れてきたら、避難の目安だよ。」と、教えてくれました。これは昔からこの地域に住んでいる、私の曾祖母が母に教えてくれたそうです。こういうことが伝えられているのは、私の住む地域は、山が多く、地盤が軟らかいので、土砂災害が多い土地柄でもあるからなのかな、と私は思いました。

次に、土砂災害が起きた時の避難場所について話をしました。私の家は4人家族で、父、母、私、妹とペットの猫がいます。父と母はそれぞれ働いていて、妹は小学校に通っています。私の住んでいる地域のどんな施設が避難場所になっているのか調べてみると、私の通う中学校、妹の通う小学校など、さまざまな施設が避難場所になっていました。思っていたよりたくさんの施設が避難場所になっていて少し驚きました。小学校と中学校はどちらも避難場所になっていました。しかし、小学校は大雨で洪水が起きた時、孤立の可能性があります。家と父の職場から離れていたため、私の家では、避難場所は私の通う中学校になりました。そして、避難するとき、ペットをどうするかについても、話をしました。ペットは大切な家族の一員なので、災害が起きて避難が必要になった時は、一緒に避難したいと思っています。しかし、ペットを避難所に連れて行っても同じ場所で生活するのは難しいようです。また、他の避難されている方と、鳴き声や衛生面などでトラブルになってしまうそうです。実際、平成28年に起きた熊本地震でも避難所での、ペットのトラブルは起こったそうです。日本では、平成28年度、全国犬・猫推計飼育頭数は、犬987万8千頭、猫984万7千頭です。これだけ、犬と猫が飼育されていると災害時、避難所にペットを連れて行きたいという人が大勢いるのではないかと思います。そこで、そういった人たちのために、ペットと避難できる環境を整えることが大切だと思います。また、飼い主もペットのしつけをきちんとして、共に避難生活を送るための準備をしたりしておかなくてははいけないと思います。

最後に、非常用持ち出し袋について話をしました。非常用持ち出し袋は私が小学生の時、防災について学んだ時に母と一緒に作りました。今回、中を見てみると、水2リットル、非常用ビスケット2缶、缶詰やペンなどが入っていました。非常用持ち出し袋にはどんなものを入れると良いのか、防災マニュアルを見てみると、救急セット、飲料水、非常食、携帯ラジオなど思ったより必要なものがたくさんあり、私は「こんなにたくさんあるの!？」と驚いてしまいました。私の家にある非常用持ち出し袋は全然物が足りていなくて、もう少し、必要な物は何かを考えて準備しなくてははいけないと思いました。

私は家族と土砂災害が起きた時どうするか話をして、あらためて土砂災害の怖さを感じました。そして、災害への備えをして自分の身を守ることが大切だということを学びました。災害時、自分の身を守ることが自分にしかできません。そこで、日頃からきちんと備えをしたり、知識を身につけておくことが重要です。そのためには自治体のハザードマップ、非常時の行動、備えのインフォメーションを確認しておくことが必要です。私は今、災害への備えをしていない人がいたら、備えの大切さを伝え、少しでも土砂災害での被害が少なくなれば良いと思います。